読んでみたい本

児童文学評論家 藤田のぼる

今年は戦後七十年ということで、子どもの本の世界でも戦争に関わるイベントが組まれたり、そうしたテーマの本が出されたりということが目立ちました。僕自身も9月に京都で開催された、「ちいちゃんのかげおくり」の作者あまんきみこさんと、那須正幹さんをお迎えしてのフォーラムのコーディネーターを務めました。那須さんは「ズッコケ三人組」シリーズの作者として知られていますが、広島生まれで、3歳で被爆をしておられます。今年の原爆の日の前日、8月5日にNHKの午後のラジオ番組に出演され、当時の話や原爆を題材にした作品について語っておられたので、お聞きになった方もいらっしゃると思います。そうした児童文学者の戦争体験を集めた2冊の本が心に残りました。『わたしが子どものころ戦争があった―児童文学者が語る現代史―』（野上暁編、理論社）と『子どもたちへ、今こそ伝える戦争―子どもの本の作家たち19人の真実―』（講談社）です。『わたしが～』では、前記のあまんさん、那須さんに加えて、神沢利子、森山京、三木卓、角野栄子、三田村信行、岩瀬成子の8氏がそれぞれの体験を語っています。このうち岩瀬成子さんは戦後生まれですが、米軍基地のある岩国に生まれ、今もお住まいです。これまであまりこうした本に登場してこなかった森山京さんや角野栄子さんが含まれていることも印象的でした。

『子どもたちへ～』のほうは、サブタイトルのように19人の書き手が登場しますが、長野ヒデ子、いわむらかずお、かこさとしといった絵本作家も多く含まれています。これまでもこの種の本は何冊かありましたが、戦後七十年経った今こそ語らねばという危機感を、この2冊から感じ取ることができました。

◇

さて、ここからはジャンル、グレード別に本を紹介していきます。まずは絵本から。

『たびするおやま』（ほんまわかや・作、文研出版）

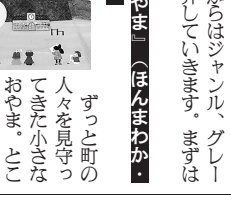
ずっと町の人々を見守ってきた小さなおやま。ところが近頃はゴミを捨てに来たり、トンネルを掘ろうかという話も出たりする始末。ある夜立ち上がったおやまは、そのままずんずん歩きだします。「いるのが当たり前」な存在が、そうでなくなった時に起こるさまざまなドラマ。親しみやすい絵が子どもたちの心をとらえ、なんだか身に覚えのある物語として受けとめられるのではないでしょうか。（低学年向き、1300円＋税）

『さけがよんひき』（最上一平・作、喜房本のつみ・絵、すずき出版）

一人暮らしのおばあさん。畑に植えたきゅうりやトマトがなくなります。たぬきたちのしわざかと思いますが、怒るどころか、自分の作った野菜を動物が食べてくれるのはうれしいのです。ある日の夕方、きゅうりやトマトをかっぱがもいでいくのを見つけてしまいました。それからは畑のきゅうりやトマトをなるべく残すようになったおばあさん。秋も深まったある日、家の前にさけが4ひきおいてありました。

民話の世界を思わせるような設定の中で、おばあさんの寂しさ、あたたかさが胸に迫ります。（低学年向き、1300円＋税）

『シルヴィーどうぶつえんへいく』（ジョン・バーニンガム作、谷川俊太郎・訳、BL出版）



ある晩、寝室の壁にドアを見つけたシルヴィー。開けてみると、下へ降りる階段があり、通路の先にもう一つドアが。そのドアの向こうは、なんと動物園でした。その夜からシルヴィーは、動物たちを代わる代わる自分の部屋に連れてきます。小さい動物はいっしょにベッドに、大きな動物はいすや床で。ところがある日、学校に行く時に寝室のドアを閉めるのを忘れると……。

センダックの『かいじゅうたちのいるところ』を思い出させる設定で、日本の家屋でイメージするのにはやや無理がありますが、こんな自分だけの世界へのあこがれは万国共通でしょう。（低学年向き、1500円＋税）

◇

次は、低学年から中学年向きの読み物です。

『たぬきがくるよ』（高科正信・作、寺門孝之・絵、BL出版）

1年生のわかばをめぐる三つの話でできていて、どの話にも4年生のお兄ちゃんが登場します。表題作の「たぬきがくるよ」は、わかばの怖いものの話。わかばは「かちかちやま」の絵本を何度も読んでもらっているうち、背中に火をつけられて泥船ごと沈んでいくたぬきのことが頭から離れなくなり、「たぬき」と聞いただけで、怖い気持ちになってきます。それを知った お兄ちゃんに「たぬきがくるよ」と脅かされるので、お兄ちゃんの怖いもので逆襲しようと考えるわけ。空想と現実がいりまじった独特な作品世界で、子どもならではの心情が描き出されています。（低・中学年向き、1200円＋税）

『おばけ道、ただいま工事中!?』（草野あきこ・作、平澤朋子・絵、岩崎書店）

夜中、翔太は見知らぬ女の子に起こされます。サトと名乗り、自分はおばけで、おばけ道が工事中の間、翔太の部屋に仮の道を通してほしいというのです。おばけ道というのは、死者がおばけ界に行くための道だという。無理矢理承知させられた翔太、次の深夜から、暗闇にヘッドライトが差し込んだようにおばけ道が現れ、いろんな人が通っていきます。ところが場所を提供しただけのはずの翔太が、おばけ界のあれこれに巻き込まれることに。

意外性のある設定の中で、ごく普通の男の子の翔太が思いがけない活躍をするハートフルな物語です。（中・高学年向き、1200円＋税）

◇

ここからは、高学年および中学生以上が対象の本です。

『べんり屋、寺岡の秋。』（中山聖子・作、文研出版）

美舟の家は、母親を中心に便利屋を開業していて、売れない画家の父親やおばあちゃん、そして美舟も戦力としてあてにされています。少し前に開店したケーキ屋の理砂さんから、娘のすみれちゃんの保育園の運動会に家族として参加してほしいとの依頼。夫は亡くなっていて、理砂さんは一人で店を切り盛りしており、実家とも断絶状態にあるといいます。これを聞いたべんり屋寺岡の、〝おせっかいプロジェクト〟が発動します。5年生の美舟の目が捉えた、大人たちの人間模様にリアリティーを感じました。『べんり屋、寺岡の夏。』の続編で、『冬』『春』も続刊予定。（高学年向き、1300円＋税）

『岬のマヨイガ』（柏葉幸子・作、さいとうゆきこ・絵、講談社）

地震と津波で大きな被害を受けた東北の海沿いの町、狐崎。この町の介護施設に、山を隔てた遠野から入所するためにやってきたキワおばあちゃん。一方、両親が交通事故で亡くなり、会ったこともないおじさんに引き取られるために、狐崎にやってきた萌花。駅のプラットホームに上ってからうじて津波から逃れた萌花を守ってくれたのは、同じ列車に乗り合わせたゆりえでした。ゆりえは、夫の暴力から逃れるために、あてもなく東北までやってきたのでした。この3人が避難所で一緒になり、キワおばあちゃんは、なぜかゆりえと萌花のことを、自分を訪ねてきた嫁と孫だといいます。結局この3人は家族として扱われ、やがて古い民家を借りて一緒に暮らすようになります。ちょっと正体不明なところのあるおばあちゃんですが、とても頼りがあり、昔話も聞かせてくれます。最初に語ってくれたのは、山奥で迷い人を助けてくれるというマヨイガの話でした。

この物語の設定は著者の短編『ブレーメンバス』を思い出させます。ファンタジーを書き続けてきた岩手県在住の著者が、日本の伝承の世界と重ねながら、震災で苦しむ人たちの心のありようにあたたかく迫ります。（高学年・中学生以上向き、1500円＋税）

『浮き橋のそばのタンムー』（彭学軍・作、渡辺仙州・訳、中山成子・絵、ポプラ社）

タンムーは、中国南部の町に住む10歳の少年。その名前は「トム」の中国語読みで、母親が妊娠中にイギリスのファンタジー『トムは真夜中の庭で』を読んだからでした。その母は新聞記者で、タンムーが家で一人になる時は門に鍵をかけていきます。父親が弁護士で誰かの恨みをかっているかもしれず、危ないというのです。ある日、窓から脱出したタンムーは、どこかの家で「夏休みまでにタンムーを殺せ」と命じているのを聞いてしまいます。あと3週間でした。恐い一方、どうせ殺されるならと、それまでできなかったチャレンジも始まります。

中国の現代児童文学作品の翻訳は珍しいのですが、ミステリー仕立ての展開の中で、タンムーのクラスメイトやタンムーが知り合いになる船上生活の子どもたちの日常が、生き生きと描き出されています。（高学年向き、1400円＋税）

『アーチー・グリーンと魔法図書館の謎』（D・D・エヴェレット作、こだまともこ・訳、あすなろ書房）

イギリスの小さな町で祖母と暮らすアーチーの12歳の誕生日に、小包が届きます。これを届けたのはイングランド最古の法律事務所の職員で、なんと400年も前に預けられたものでした。中身は古めかしい1冊の本。これには指示書がついていて、この本をオックスフォードの古書店に届けなければならないというのです。戸惑うアーチーに、おばあちゃんはすぐにオックスフォードに向かうこと、そしてオックスフォードに住むロレッタおばさんの一家を訪ねるように命じます。アーチーには、それまで聞いたこともないおばさんの名でした。実は、アーチーの家系は、古代からの魔法の悪用を防ぐための魔法図書館の〈炎の守人〉の一族だったのです。

いささか安易な説明になりますが、エンデの『果てしない物語』と『ハリー・ポッター』のテイストを組み合わせたような、ファンタジーの魅力満載の物語。続編は執筆中ということで何冊になるかわかりませんが、楽しみなシリーズの発刊です。

（高学年・中学生以上向き、2000円＋税）

ベルマーク寄贈者（敬称略）

6月21日から7月20日までに届いた分

大震災寄贈マーク

▼北海道　森県、航空自衛隊連合准曹会東北北支部▼岩手県　佐々木敏見▼宮城県　高橋　レンドリース・ジャパン株式会社テレコム1部東北グループ▼茨城県　高橋美加　有限会社井上商事▼栃木県　鈴木めぐみ▼埼玉県　ASA川越南部　OKIソフトウェアユニオン　航空自衛隊熊谷基地准曹会　コープみらい東岩槻店▼千葉県　斉藤章子　関田元子　茅野増子▼東京都　JYJへの愛をささやく　伊地知信子　猪野雅夫郎　株式会社石井商店　甲斐政江　カトリック成城教会有志　久保光枝　新東京郵便局有志一同　住友不動産建物サービス株式会社　高野優子　多摩南部朝日会　土屋恵美子　西川久恵　日本基督教団小金井緑町教会　横田寛子▼神奈川県　柿沼恵子　小出地区青少年育成推進協議会　安彦泰進　渡会恵▼新潟県　匿名希望▼富山県　山上傑・陽・協▼静岡県　岡田典子・奈己　田中里枝▼愛知県　飛鳥村収集ボランティアグループ結の会　金山保育園　園木みち子　プラザー工業株式会社▼三重県　藤原あつき▼大阪府　株式会社NTTドコモ関西支社▼山口県　福田裕子▼福岡県　加藤和代　八津田小読みきかせグループ「どっこいしょ」▼大分県　朝日新聞大分販売株式会社　市成節子　落由紀　大口酒造株式会社　ガールスカウト鹿児島県連盟　かごしま産業支援センター　鹿児島文館総合研究所Ten-Lab　かごしまバルマーク運動推進の会　鹿児島市立吉野小学校　カフェキラリーあがっぺん　鎌田智子　県立吉野公園管理事務所　こうえん緑局　坂本順子　さつま町立山崎小学校　高崎順子　西本願寺鹿児島別院　日本生命鹿児島支社　野下ひとみ　肥後病院　ホテル霧島キャッスル　南日本新聞社　宮田内科　やきとり崎車場　弥助寿司　宿里多智子　吉野寺▼立正佼成会熊本教会天草道場青年・学生部▼無記名＝12件

6月21日から7月20日までに届いた分

一般寄贈マーク

▼北海道　館岡隆・直人▼宮城県　丹治美佳▼秋田県　高橋美智子▼茨城県　安藤梨沙　高津圭子▼群馬県　野村栄作▼埼玉県　ASA川口北部　大嶋明美　竹内寿治▼千葉県　小島信浩　小関享子　小松正幸　小山ひとみ　松丸りつ子▼東京都　生澤英彦　井上一郎　岡崎ゆかり　小野明美　麹町小学校PTA文化委員会　篠田深才　須賀雄斗　永田利恵子　丹羽祥子　パナソニックエコソリューションズ労働組合東日本総合支部　松永裕子　水田康平　村上新　村上史子　矢野順子▼神奈川県　株式会社朝日トライズASA平塚豊田▼山梨県　松本泰子　山梨中央銀行職員組合▼長野県　塚田康子▼岐阜県　河合雅也▼愛知県　奥村裕子　株式会社NTTBA西日本東海支店　岸希代美　佐々木光治　新海のぞみ　トヨタファイナンス株式会社オーソリセンターオーソリG　長江三奈子▼三重県　阪口敏子　井智美樂▼滋賀県　大澤凛▼京都府　照喜納弘美▼大阪府　大石孝治　大西祐子　乙重育代　株式会社ティーアイ　株式会社トヨタレンタリース大阪社会貢献委員会　白井千鶴　猫石直子▼兵庫県　松本由美子　三菱電機株式会社関西支社　安永恵子　今西正樹　福田登三枝▼奈良県　植田▼広島県　竹原万琴　吉田夕岐子▼徳島県　松原沙織▼福岡県　JR九州ユニオン　橋本奈津▼長崎県　久保山繁樹▼大分県　石堂泰史▼宮崎県　甲斐裕子▼無記名＝15件

7月21日から8月20日までに届いた分

大震災寄贈マーク

▼北海道　岸本裕美恵　日本生命保険険相互会社札幌支社　美唄消費者協会　北海道小樽商高等学校すけっと同好会▼岩手県　小菅慶美　山本敦子▼群馬県　鈴木詠子▼栃木県　早乙女恵子▼群馬県　斉藤春子▼埼玉県　市川真美　航空自衛隊熊谷基地准曹会　福田美和子　藤田富士子　藤本晃子　イングリッシュ・ブルーベル▼千葉県　M・Y　石井良子　柏木イク子　深堀りつ子　福島位枝　柳川きみよ▼東京都　JYJへの愛をささやく　荒川区立第一中学校　イオン銀行従業員組合　伊藤暢章　オープンテキスト株式会社　株式会社岡村製作所　河瀬弘子　小泉泰子　小野陽子　小松鋭之　住友不動産建物サービス株式会社　中村美夫　日本基督教団小売協会　小松鋭之　住友不動産建物サービス株式会社　中村美夫　日本基督教団小南部朝日会　東通産業株式会社　中村美夫　日本基督教団小金井緑町教会　蛭田朋子　福田秀子　河西ひろみ▼神奈川県　ASA二俣川　Golden Wing　伊東孝子　金田由起子　のあインターナショナルスクール　桜井朋江　新村美律子　畑上麻保▼長野県　二木恵　能藤由貴　牧田知与子▼石川県　畑上麻保▼長野県　二木恵　牧田知与子▼石川県　岐阜県　岐阜県JAビジネスサポート株式会社▼静岡県　全矣崎化工労働組合　匿名希望▼愛知県　鈴木美子　平林純▼岐阜県　岐阜県JA　京都府　京都府立中丹支援学校生徒会　西洋子　長江政即▼京都府　京都府立京都聾学校　一村産業株式会社　尾知江子　八里伊津美　加藤紅花▼大阪府　清川貴志▼奈良県　サークル　べるちゃんボランティア　宮崎新嗣▼岡山県　東大阪市役所　溝川貴志▼奈良県　サークル　島たんぽぽ▼山口県　有井尚輝▼福岡県　TOTOUNION　安楽くるみ　石川順子　古賀幸枝▼大分県　衛藤あや子▼鹿児島県　小倉美由喜　畠中房子▼沖縄県　沖縄県労働金庫労働組合▼無記名＝18件

7月21日から8月20日までに届いた分

一般寄贈マーク

▼北海道　館岡隆・直人　高橋美佳▼茨城県　鈴木詠子▼埼玉県　田口節子　安井里美▼東京都　飯塚美友　榎本麗子　エルゼビア・ジャパン株式会社　小沢妙子　株式会社ジェー・シー・スタッフ　木村えり子　酒井泰子　佐藤正子　杉浦信子　全国東芝ストア－2015夏東芝フェア実行委員会　寺田真人　野口昌苗　松崎慶子　水口真理子▼千葉県　土田節子　